



料金後納

ゆうメール

世田谷パブリックシアター SETAGAYA PUBLIC THEATRE

学芸プログラム 通信 No.15 2022年11~12月号

新たな年が始まりました。新年から新型コロナの流行を忘れるような晴天が続き、晴れやかな気持ちで新しい年を迎えられた方も多いと思います。

今年も、世田谷パブリックシアターは学芸部のスタッフ共々、皆さんと一緒に元気に活動して参りたいと思います。何卒よろしくお願いいたします。

さて、昨年秋から師走にかけての最大のイベントは、なんと言っても「極楽フェス'22」です。この「極楽フェス」は、世田谷パブリックシアターが、一昨年から世田谷の下馬地区で活動をされている団体や組織の皆さんと共に立ち上げたアートプロジェクトです。「極楽」という言葉の中には、「共に生きている人を見捨てない。自分を見捨てない」という教えが込められていると言われています。下馬地区にある都営下馬アパートの集会所や世田谷ボランティアセンターなどを会場として、今年も賑やかに開かれました。

朝の10時半から、世田谷ボランティアセンターでのオープニングセレモニーの後、「ともにゃの部屋」で幕開けをいたしました。事故により脳機能障害になられた黒田真史さんの物語を御本人も参加して語られる話は、愉快でもあり、障害の方々を身近に感じられる素晴らしい物語です。ダンス、絵本の読み聞かせ、出店など様々なパフォーマンスも繰り広げられ、「なんちゃってちんどん・極楽や」はデイケアサービスの利用者の方々楽しんでもらおうと施設を巡りましたが、皆さんが玄関までお出迎えくださるハプニングもあり盛り上がりしました。午後には「支えること」をテーマに、演劇を用いて皆さんと共に考える時間となりました。自分の抱える悩みを他者と共有することによって、孤独から立ち直る力になることが分かる貴重な時間になりました。そして、なんと言っても特筆すべきは、保存会の皆様による太鼓演奏をバックに繰り広げられたクロージングセレモニーの盆踊りです。アートプロジェクトに参加した人も、地域の住民の皆様もみんながごちゃまぜになって踊る姿は、まさに「極楽」。サンタクロースにはび姿の人など、様々な年齢の方々が渾然として舞う盆踊りは、地域の人々の結び付きを感じるまさに、現代のフォークダンスのようでした。

劇場が、このようなアートプロジェクトを皆さんと共に作ることができた喜びが感じられた素晴らしい一日でした。今年もまた開催される予定ですので、皆さんもどんどご参加いただければと思います。このような、地域のつながりを世田谷全体に広げていけたらという夢は広がるばかりです。

今年も、ますます元気に活動して参りますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

世田谷パブリックシアター・芸術監督 白井晃

1月・2月・3月のピックアップニュース 12月31日時点 *WS=ワークショップの略

子ども	1月7日(土)	『ごちゃまぜ演劇WS 1月のおおきなカルタ!編』	劇場で行う子ども対象WS
	2月25日(土)	『ごちゃまぜ演劇WS』	劇場で行う子ども対象WS
区民参加	1月8日(日)~3月19日(日)	地域の物語2023WS『看取りをめぐる物語』えんげきコース 全16回+発表会	劇場で行う長期WS
	1月9日(月・祝)~3月19日(日)	地域の物語2023WS『看取りをめぐる物語』からだコース 全12回+発表会	劇場で行う長期WS
	1月15日(土)・2月19日(日)	『舞台芸術のクリティック2022-23』	批評を実践する講座
	2月4日(土)・7日(火)	ビーピング・トム『マザー』 ワークショップ	劇場で行う短時間のダンスWS
地域連携	2月24日(金)	『デイ・イン・ザ・シアター』	劇場で行う短時間の演劇WS
	1月13日(金)~2月21日(火)	「かなりゴキゲンなWS巡回団」 上北沢小学校1・2年生、烏山小学校1・2年生、京西小学校2年生、桜小学校2年生、三軒茶屋小学校2年生、弦巻小学校1・2年生、用賀小学校1年生、ほっとスクール城山	学校での演劇WS
育成	2月8日(水)	『ともにゃの部屋~黒田真史さん! ほっとスクール希望丘』	学校のためのプログラム
専門家	1月17日(火)	【演劇WSラボ】SPTラボラトリーレクチャー「演劇ワークショップと学校教育~20年を振り返る、そしてこれから~」	演劇WS専門家庭教育
その他	1月23日(月)・24日(火)	『ともにゃの部屋~黒田真史さん~』 明正小学校	文化庁・ユニバーサル公演事業
	1月30日(月)	『ともにゃの部屋~黒田真史さん~』 軽井沢風越学園	文化庁・ユニバーサル公演事業

2022年11月～12月学芸事業一覧

子ども …… 子どものためのプログラム 区民参加 …… 世田谷区民、その他一般参加者のためのプログラム
地域連携 …… 区内施設、NPO他と協力して実施するプログラム 専門委員会 …… レクチャーや人材育成の取組

11月

- 1日(火) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校6・4年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」山野小学校5年生(進行役:柏木陽) **地域連携**
- 2日(水) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校2年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 3日(木) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」感想クラブ⑤ **専門委員会**
- 4日(金) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校3・5年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 5日(土) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」グリーンケアクラブ⑦⑧ **専門委員会**
- 6日(日) ● 『舞台芸術のクリティック2022-23』1/5回目 **区民参加**
18:30～20:30 舞台を読む②「芸術・公共・批評」(講師:八角聡仁、高橋宏幸)
演劇やダンス等の舞台芸術の批評を实践する講座。97年の劇場開館時から毎年開催していたが、ここ2年は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い見合わせていた。今年度、全体の回数を減らして再開。作品を分析的に読み解く視点や方法を習得するためのレクチャー「舞台を読む」(3回)と、実際に批評を書いて、講評と議論を中心に進める「批評を書く」(2回)の二部構成で行う。
- 7日(月) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校6年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校2年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 8日(火) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校4年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」山野小学校6年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」山野小学校5年生(進行役:柏木陽) **地域連携**
- 9日(水) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校5年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 10日(木) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校1年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」山野小学校6年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』 **地域連携**
14:00～16:00「写真日記編」(進行役:金川晋吾)
- 11日(金) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校6年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 13日(日) ● 『世田谷パブリックシアター-中学生演劇部～区大会編～』16/16回目 **子ども**
13:30～15:30(進行役:大迫朋奈)
- 14日(月) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」おやこフシギ発見クラブ⑪ **専門委員会**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校2年生(進行役:すずきこた) **地域連携**
- 「かなりゴキゲンなWS巡回団」中里小学校4年生(進行役:とみやまあゆみ) **地域連携**
- 15日(火) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」オンライン研究クラブ⑥ **専門委員会**
- 17日(木) ● 下馬地区アートプロジェクト『極楽フェス'22』関連企画
「下馬福祉工房での歌作りWS」 **地域連携**
14:00～15:00(進行役:青木拓志、柏木陽)
12月の下馬地区アートプロジェクト「極楽フェス'22」で、下馬地区を練り歩くプログラム「なんちゃってちんどん・極楽や」の関連企画。「ちんどん屋」メンバーを進行役に迎え、区立下馬福祉工房(知的障害のある方が働く福祉施設)の利用者とテーマソングの練習と「ちんどん屋」の歌詞をつくるWSを実施した。
- 「演劇WSラボ・クラブ活動」
「コーディネーションマインド・スキルをシェアするクラブ」⑦ **専門委員会**
- 19日(土) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」おやこフシギ発見クラブ⑫ **専門委員会**
- 20日(日) ● 『舞台芸術のクリティック2022-23』2/5回目 **区民参加**
18:30～20:30 舞台を読む③「演劇・公共・Web」(講師:高橋宏幸)
- 21日(月) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」ほっとスクール城山(進行役:柏木陽) **地域連携**
- 『世田谷パブリックシアター-ダンス食堂メニュー21 田村一行』 **地域連携**
19:00～21:00 ワークショップ(進行役:田村一行)
- 22日(火) ● 下馬地区アートプロジェクト『極楽フェス'22』関連企画
「下馬兵舎時代の思い出の絵地図 女性編」 **地域連携**
10:00～12:00(進行役:阿部健一)
2021年に開催した「極楽フェス'21」では、都営下馬アパートの兵舎時代を知る男性の方々当時の様子やうかがい、1枚の「下馬兵舎時代の思い出の絵地図」にまとめて展示した。今年度の開催にあたって、絵地図の「女性編」を作成・展示すべく、女性の方々にお集まりいただきお話をうかがった。おしゃべりをしながら思い出した兵舎時代のエピソードを一枚の地図に書き加えていき、自分たちが「思い出の絵地図」を作り上げていった。
- 「演劇WSラボ・クラブ活動」
「学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ」⑦ **専門委員会**
- 23日(水) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」おやこフシギ発見クラブ⑬ **専門委員会**
『ごちゃまぜ演劇ワークショップ 11月のおさんぽ編』 **子ども**
13:00～17:00(進行役:すずきこた)
小学生から22歳までの「ごちゃまぜ」な年齢の人たちが集まって演劇をつくる「ごちゃまぜ演劇ワークショップ」。これまで、学校の長期休み期間にあわせて実施していたが、新型コロナウイルスの流行により、子どもたちが人や地域と関わる機会を得づらくなっているという状況を踏まえ、11月より1回程度の定期的な開催へと変更。学齢で区切らないWSとすることで、異なる年齢の子どもたちが交流する機会を提供している。

イントロダクションとなる初回、この講座の進め方や批評についての考え方を説明しました。その後、これから批評を書くにあたり、「誰に」向けて書くのかを明確にイメージするために、受講者一人ひとり自己紹介をしていきました。普段どういった舞台を観るのか、どんな関心があるのかを皆で共有しました。

8月から10月末の区大会本番まで、全15回にわたり活動してきた「中学生演劇部」の振り返りの回。久しぶりに集まった中学生たちが再会を喜ぶ姿が見られました。「権利のことは難しいし、報に見られるのは緊張したけれど、頑張ってきた」「自分でも気づいてなかった自分の一面を知ることができた」などの感想がありました。



WSや本書の感想をふせんで共有しました。

下馬福祉工房の利用者の皆さんに、「極楽ってどんなところ?」「極楽にはどうやって行く?」という問いを投げかけ、そこから出てきた言葉をつむいで歌詞をつくりました。思いもよらない、ユーモアのある言葉が会場いっぱい溢れ、とてもにぎやかな場となりました。

昨年の絵地図づくりでお話をうかがった3名はたまたま全員男性だったため、今回は女性に集まっていたことにしました。「男の子と女の子で遊び方や遊ぶ場所が違った?」「放事場や水まわりはどうなっていた?」など、前回とはちがう角度から、下馬の兵舎時代を辿ることができました。今後この絵地図づくりの活動は継続していく予定です。



お話をうかがっている様子

グループになって劇場周辺を散歩しながら、「顔に見えるもの」を探して撮影。見つけた「顔」の中から自分のお気に入りを選び、その「顔」の人が誰かのために働く劇をつくりました。「勤労感謝の日」に、働くことやお手伝いすることに思いをはせる内容となりました。



お散歩で見つけた「顔」になりきって演劇をつくりました。

12月

- 24日(木) ● 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』 **地域連携**
14:00～16:00「写真日記編」(進行役:金川晋吾)
- 「演劇WSラボ」SPTラボラトリーレクチャー
「演劇ワークショップと学校教育～20年を振り返る、そしてこれから～」③ **専門委員会**
18:30～21:00「教育委員会から不登校児童生徒、特別支援学級を支援する」
(講師:土屋由紀子 × 聞き手:高尾隆)
- 25日(金) ● 『デイ・イン・ザ・シアター』1日限りの「演劇&劇場」体験WS **区民参加**
15:00～17:00/19:00～21:00「日常のささやかな大ピンチ?編」
(進行役:高永圭一)
- 27日(日) ● 「先生のためのWS」東京学芸大学・国語科教育における演劇WS **地域連携**
14:00～17:00(進行役:すずきこた)
- 18日(木) ● 下馬地区アートプロジェクト『だれでも写真クラブ・極楽』 **地域連携**
14:00～16:00「写真日記編」(進行役:金川晋吾)
- 6日(火) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」駒沢小学校5年生 **地域連携**
(進行役:すずきこた)
- 7日(水) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」
「学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ」⑧ **専門委員会**
(進行役:すずきこた)
- 8日(木) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」グリーンケアクラブ⑨ **専門委員会**
- 文化庁・ユニバーサル公演事業
『ともにやの部屋～黒田真史さん～』 **レポート**
埼玉県本庄市立旭小学校 **その他**
「ともにやの部屋～黒田真史さん～」は、障害当事者と福祉施設職員の「障害者のことを地域の人たちに知ってほしい」という思いを受け、2021年の下馬地区アートプロジェクト「極楽フェス」のさいに世田谷パブリックシアターが製作・上演した演劇作品。ともにや(大迫朋奈)をはじめとする俳優たちが、高次脳機能障害の黒田真史さんが語るライフストーリーをもとに集団創作した。今年度、本作品が文化庁の「文化芸術による子供育成総合事業(ユニバーサル公演事業)」に採択され、12月～1月に全国の小・中学校4校での開催が決定。障害当事者の歩んできた人生をユーモラスに伝える親しみやすい劇と、実際に作中の一場面を体験してみるWSで、距離を感じてしまいがちな「障害」にどう向き合うかを考えるプログラムとなっている。
- 10日(土) ● 下馬地区アートプロジェクト『極楽フェス'22』 **レポート**
世田谷区の下馬地区において、2021年度より実施しているフェスティバル「生きること/死ぬこと」をテーマに、アートを通して地域全体がつながることを目指している。今年度は、下馬地区の社会福祉法人や町会などの全11団体が連携し、共同で主催。世田谷ボランティアセンターと都営下馬アパート第1集会所の2か所を会場に実施した。
- 11日(日) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」オンライン研究クラブ⑦ **専門委員会**
- 12日(月) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ⑨ **専門委員会**
- 13日(火) ● 文化庁・ユニバーサル公演事業『ともにやの部屋～黒田真史さん～』
神奈川県伊勢原市立伊勢原中学校 **その他**
- 13日(火) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」用賀小学校2年生 **地域連携**
- 14日(水) ● (進行役:とみやまあゆみ)
- 15日(木) ● 「かなりゴキゲンなWS巡回団」ほっとスクール城山 **地域連携**
(進行役:柏木陽)
- 16日(金) ● 「演劇WSラボ」SPTラボラトリーレクチャー「演劇ワークショップと学校教育～20年を振り返る、そしてこれから～」④ **専門委員会**
18:30～21:00「従来型の学校教育を超えて遊びと学びが広がる学校づくりへ」
(講師:岩瀬直樹 × 聞き手:高尾隆)
- 17日(土) ● 『舞台芸術のクリティック2022-23』3/5回目 **区民参加**
18:30～20:30 舞台を読む④「舞台芸術とメディア社会」(講師:森山直人)
- 20日(火) ● 「演劇WSラボ・クラブ活動」学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ⑩ **専門委員会**
- 「演劇WSラボ」定例会 **専門委員会**
「演劇WSラボ」は2018年度より開始した演劇WSの専門委員会事業。公募で集まった研究員たち(ファシリテーター、学校教員、福祉従事者、俳優、研究者、学生等)が共同で研究・実践するクロージドのクラブ活動を行うほか、研究員同士がより交流を深め、ともに学び合うための定例会を行っている。また「演劇WSラボ」では一般参加可能なゼミやレクチャーも開催している。
- 24日(土) ● 『ごちゃまぜ演劇WS 12月のサンタをつかまえる!編』 **子ども**
13:00～17:00(進行役:金谷奈緒)
- 25日(日) ● 『デイ・イン・ザ・シアター』1日限りの「演劇&劇場」体験WS **区民参加**
10:30～12:30/15:00～17:00「クリスマススペシャル編」(進行役:すずきこた)

前半は作品鑑賞、後半はWSという構成で実施しました。子どもたちは時に笑い、時に真剣な表情を見せながらもとても素直に反応し、「どう声をかければよいかわからなかったけど、普通に声をかければいいんだって思いました」、「不自由になると嫌だなんて思っていたけど、助けを求めればいいんだって分かりました」との感想を寄せてくれました。障害のある人を身近に感じてもらえる機会となったように思います。



真剣に劇を見る子どもたち



クローゼットを飾る木鼓と鼓陣

軽井沢風越学園校長・軽井沢風越幼稚園園長の岩瀬直樹さんをお招きしました。「幸せな子供時代をつくるのは大人の仕事」という信念のもと行ってきた、「学校の中にもどのような経験や場をつくれるのか」、「子ども達とどう向き合うのか」という20年にわたる探求をお話していただきました。



研究員一人ひとり近況をざっくばらんに話した後、全部で6つあるクラブ活動(おやこフシギ発見クラブ「オンライン研究クラブ」学校に行けない/行かない子ども達のための演劇WSクラブ「感想クラブ」グリーンケアクラブ「コーディネーションマインド・スキルをシェアするクラブ」)の報告をしていきました。これまでの活動内容や成果、今後の課題などを皆で共有し、活発な議論が交わされていました。



サンタさんの仲間のアリをして、家にきたサンタさんをつかまえる演劇をつくりました

クリスマス開催となった12月の「デイ」は、J・R・トルキンの「サンタクロースからの手紙」の挿絵から演劇をつくりました。誰も知らないサンタさんの日常生活を想像しながらつくった演劇は、北極熊やゴブリンが登場する楽しい作品となりました。



サンタさんとその仲間たちのお話



文化庁・ユニバーサル公演事業

『ともにやの部屋～黒田真史さん～』

公演日程：12月8日(木) 埼玉県本庄市立旭小学校、12月13日(火) 神奈川県伊勢原市立伊勢原中学校、1月23日(月)・24日(火) 世田谷区立明正小学校(予定)、1月30日(月) 軽井沢風越学園(予定) 出演：大道朋奈・有吉宣人・大塚由祈子・高野葵&黒田真史 主催：文化庁 企画制作：世田谷パブリックシアター

障害当事者の黒田真史さんが語る半生をもとに俳優たちが集団創作した演劇作品『ともにやの部屋～黒田真史さん～』(21年度初演)が、文化庁の「令和4年度文化芸術による子供育成推進事業(ユニバーサル公演)」に採択され、全国の希望する小・中学校で実施することになりました。

昨今子どもたちが障害のある人と出会い、触れ合う機会は少なくなっています。そのような中での障害理解は難しいことは言うまでもありません。今回、まず障害当事者と「出会い」、そこで生まれた思いや考えを子どもたち同士や障害当事者と共有する場を提供できればと考えました。

このプログラムは、前半が公演、後半はWSという構成になっています。公演では、18歳のときに交通事故で高次脳機能障害となった黒田さんが、発語や移動もままならない失意のどん底から、リハビリを重ねて、口から食べたり、一人で出かけたり、タブレットで意思を伝えたりとひとつずつ実現していき、自分のできる方法で人と関わりながら生きていく姿を描いています。上演後のWSでは、黒田さんがスーパーで買い物をする劇中の場面を、子どもたちが黒田さんと一緒に演じます。自分で商品を手にとることができず、言葉でのコミュニケーションが難しい黒田さんにどんな手助けが必要なのかを、実際に体験して学びます。その後は、黒田さんを含めた皆で感想を話したり、質問したりしながら交流を深めました。

12月には旭小学校と伊勢原中学校で上演しました。旭小学校では、子どもたちが身を乗り出して劇を楽しみ、休憩時間に黒田さんを一斉に取り囲んで、何の躊躇もなく興味津々に話かけていたことがとても印象的でした。伊勢原中学校の生徒たちは、終了後に手紙を送ってくれました。自分の障害のある兄弟のこと、障害のある人に対して善手意識を持っていたこと、黒田さんに出会って心のハードルが少し下がったことなど、率直な感想を寄せてくれました。どちらの学校でも、黒田さんが、やんちゃだったり、とぼけていたり、どこにでもいる「ふつう」の人であることを感じとってくれたようです。

障害があるというだけで、特別な目で見えてしまう、ともすれば怖いと思ってしまうことがあります。けれども、障害者としてではなく、1人の人として出会うことさえできれば、そんな偏見は生まれなくてもいいかもしれません。このプログラムは、そんな当たり前の人と人との出会いの場として機能しうものだと思っています。



下馬地区アートプロジェクト『極楽フェス'22』

日程：12月10日(土) 会場：世田谷ボランティアセンター、都営下馬アパート第1集会所 ほか

主催：下馬2丁目北町会、社会福祉法人日本フレンズ奉仕団(フレンズケアセンター、下馬あんしんすこやかセンター)、社会福祉法人世田谷ボランティア協会(世田谷ボランティアセンター、ケアセンターふらっと、地域障害者相談支援センターぼーとせたがや、パートナーセンター)、世田谷区立下馬福祉工房、社会福祉法人奉優会(優っくり村下馬)、三宿病院「訪問看護ステーション」、公益財団法人せたがや文化財団(世田谷パブリックシアター)

「極楽フェス」は、人が死に向かう生をいかに生きていくかを、アートを通じて考えたいと、下馬地区で活動している団体・組織と世田谷パブリックシアターが協力し、2021年に立ち上げたアートプロジェクトです。今年も引き続き12月10日に、2回目の「極楽フェス」を実施しました。当日は、主催者に名を連ねた11団体・組織が、それぞれの特性を活かしたバラエティ豊かなお店やプログラムで、会場を盛り上げました。

その中で世田谷パブリックシアターが担当したのは、6つのプログラムです。まずは、世田谷ボランティアセンターの会場での「ともにやの部屋～黒田真史さん」。『極楽フェス'21』での初演から、全国の小・中学校でもツアーを行なっている大人気作品です。続いての「ひらけ絵本」では、2人の俳優が、観客参加型の楽しいアクティブな絵本読み聞かせを行いました。「なんちゃってちんどん・極楽や」では、「極楽フェス'22」当日に先立ち、下馬福祉工房さんと歌のWSを実施。そこから生まれた新曲「極楽ってどんどころ?」と、昨年からのテーマソング「極楽ソング」を、トランペットとギターに合わせてみんなで歌いながら、スタート地点のボランティアセンターから都営下馬アパート第一集会所にむけて出発。その後、エリア内2カ所のデイサービスも訪問し、利用者の方達に懐メロなどをプレゼントしました。

月1回開催している写真クラブ「極楽」では、「上映会：写真クラブ・極楽」で、参加者が撮りためた写真と日記の朗読を組み合わせた映像を上映しました。屋外での「下馬兵衛時代の思い出の絵地図」は、太平洋戦争後、兵衛を活用して住宅としていた時期を知る方達のお話を、昔の地図を広げつつ、収集するコーナー。「極楽フェス'21」では男性のお話を中心でしたが、今回は女性のお話もたくさん伺うことができました。「支えること」についての小さな劇」では、下馬地区で支援職に就かれている方のお話を聞き、短い演劇にまとめました。

これらのプログラムに共通するのは、誰かの物語を聞くことから始めていること。物語を伝える演劇の力を活かし、聞いたお話を、また誰かに伝えるために、いろいろなアートフォームにまとめています。作品を通じて、これまで知らなかった誰かを知り、対話が生まれていく。そして身近な誰かの人生にも関心を持ち、誰かの人生を受け入れていく。そうした積み重ねの先に、地域に暮らす方たちそれぞれの「生きること」が大切に扱われ、一人ひとりがつながり、そして地域がつながる社会になると思っています。

